

小学校第5学年音楽科学習指導案

指導者 山本 早苗

- 1 題材名 和音の変化を味わって音を合わせて演奏しよう
- 2 題材の目標 旋律にふさわしい和音で伴奏を工夫する活動を通して、和音の変化を味わい、音を合わせて演奏する。
- 3 主な〔共通事項〕 ア (ア) 音の重なりや和声の響き、旋律
(イ) 二部形式 (a a' b a')
- イ I, IV, V, V7

4 題材設定の意図

本題材では、旋律にふさわしい和音で伴奏を工夫することによって重なり合う音の美しさや和音の変化を味わって音を合わせて演奏することをねらいとしている。

音が重なり合うことによって生まれる、単音とは異なる響きの美しさを感じ取らせたい。そのためには、和音の構成音や名前を知り、響きを通して知覚し感じ取らせるために、その構成音を友達と鍵盤ハーモニカで分奏したり、旋律と合わせてふさわしい和音を探したりすることが大切であるとする。その際、主旋律を階名唱することと、四つの「和音カード」を示すことによって旋律にふさわしい和音を探す手掛かりとする。

その上で、旋律にふさわしい和音で伴奏を工夫するグループ活動を行う。この、伴奏を工夫する活動では、複数の「リズムパターン」を提示して2部形式のaとbという対照的な旋律にふさわしいリズム伴奏をそれぞれ考えさせられるようにし、旋律と和音との結び付きを学ぶことによって、本題材の目標に迫りたい。

5 教材について

本研究では「静かにねむれ」を教材として選択した。この曲は親しみやすい旋律に和声進行の基礎となる和音が付けられていて、音の重なりやその変化が明瞭な曲となっている。その為、音の重なりを感じ取るにはふさわしい教材である。

また、和声の響きやその変化をより理解するために、まず旋律にふさわしい低音と和音を考え、その後、リズムパターンを用いて伴奏を工夫する活動を行い思考・判断の場面を作っていきたい。

6 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
歌唱			
器楽	○	○	○
創作			
鑑賞			
題材評価規準	音の重なりや和声の響きに関心をもち、音を合わせて演奏することに意欲的である。	音の重なりや和声の響きの変化を感じ取って旋律や伴奏を生かす表現の工夫をしている。	旋律にふさわしい和音で伴奏を工夫する活動を通して、和音の変化を味わい、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。
学習活動の評価規準	①旋律と歌詞、伴奏に関心をもちながら歌うことに意欲的である。 ②鍵盤ハーモニカで低音部や和音伴奏を合わせて演奏することに興味・関心をもっている。	①グループで音の重なりや和音の変化を感じ取り、旋律に合うようにリズムパターンを用いて伴奏を工夫している。	①グループ発表において、互いの声部の音や伴奏の響きを聴きながら、和音の変化を味わい、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。

7 学習と評価の計画（4時間扱い）

次	時	ねらい	主な学習活動	具体の評価規準
第1次	第1時	曲想を感じ取りながら旋律の歌い方を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「静かにねむれ」の歌詞を見ながら情景を想像して範唱を聴く。 ・主旋律を聴いて正しい音程やリズムで歌う。 ・旋律と歌詞から曲想を感じ取って歌う。 ・曲想を感じ取って主旋律の階名唱をする。 ・伴奏を聴いて和音とその構成音や種類を知る。 	アー①
第2次	第2時	和音に親しみ、音の重なりを感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカードで和音の構成音を知る。 ・三和音を和音記号と照らし合わせ、分奏する。 ・和音を演奏しながら構成音が異なると響きが変わることを感じ取る。 ・主旋律を弾きながら、それに合う低音伴奏をド、ファ、ソの中から選ぶ。 	アー②
	第3時	旋律に合う和音で伴奏を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・主旋律を階名唱しながら、主旋律と低音伴奏の演奏に合う和音伴奏を、提示した四つの和音から選ぶ。 ・グループ活動において、提示した複数のリズムパターンから、2部形式のaとbの対照的な旋律にふさわしいリズム伴奏を工夫する。 	イー①
第3次	第4時	和音の響き旋律による変化を感じ取りながら音を合わせて演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表会において、で主旋律と低音と和音を分担して演奏し、自分たちの伴奏の工夫点を紹介する。 	ウー①

8 本時の学習

(1) ねらい

音の重なりや和声の響きの変化を感じ取って、旋律や伴奏を生かす表現の工夫をしている。

(2) 準備・資料

拡大楽譜 拡大歌詞 リズムパターン ヒントカード フラッシュカード ワークシート

(3) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆学習活動における具体の評価規準）
<p>1 「静かにねむれ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞唱 ・階名唱 <p>2 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>旋律に合う和音で伴奏のリズムを工夫しよう。</p> </div> <p>(1) bの旋律と、低音伴奏に合う和音を、四つの和音の中から選んでつける。</p> <p>(2) グループで提示したリズムパターンを用いて、aとbの部分にふさわしい伴奏を工夫する。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返り、拡大楽譜、拡大歌詞を掲示して情景を想像しながら安心して歌える雰囲気をつくる。 ・音の上がり下がりや跳躍するところに気を付けて歌うよう助言する。 ・フラッシュカードや和音当てを行い、和音についての知識を確認する。 ・本時の学習課題を提示して、前時の学習を振り返りながら旋律に合う和音で伴奏を工夫する課題であることを説明する。 ・重なり合う音の響きの移り変わりを感じ取ることできるように、主旋律を階名唱しながら和音を選ぶようにする。 ・和音の構成音を理解することが、困難な児童に対しては、鍵盤ハーモニカの鍵盤に和音ごとに色分けをしたシールを貼る。 ・この曲の特徴である、2部形式を生かして、aとbの旋律にふさわしい伴奏のリズムを工夫することを伝える。 ・bの部分が曲の一番盛り上がる場所であることを強調記号から押さえる。 ・グループに分かれる前に、リズムパターンを手拍子で打ったり、口ずさんだりしながらリズムを確認する。 ・低音伴奏と和音伴奏に分かれて練習したり合わせたりして練習したりするよう伝える。 ・スムーズに演奏できるようになったグループには、そのリズムを選んだ理由も明確にするよう助言する。 ・低音伴奏と和音伴奏との音の重なりにも気を付けて演奏するよう助言する。 ◆グループで音の重なりや和音の変化を感じ取り、旋律に合うようにリズムパターンを用いて伴奏を工夫している。イー①（観察・ワークシート） ・自分たちで旋律に合う伴奏を工夫し、練習できたことを賞賛し、次時は発表会を行うことを伝える。